



イノシシ被害深刻



からいもの食害
イノシシが食いちらかしたあと



被害のあった畠（米山）まわりに電気牧柵がある

実りの秋を迎える中、大津町の特産物のからいもの収穫作業が行われています。ところが、収穫前のからいもや里芋にイノシシによる食害が広がり、農家にとって深刻な被害がでているというこ

とで、経済建設常任委員会は9月24日に現地調査を行いました。

町北部「古城・米山」の被害箇所を金田区長さんをはじめ農家の方の案内で調査しました。

からいも畑には、イノシシを電気ショックによって撃退するための電気牧柵が張り巡らせてありました。畠間の電源を切っている間にイノシシが侵入してからいもを食い荒らしたあとが確認できました。

電気牧柵には町の補助が出ますが、「ソーラー発電式の機械は性能が高いけど値段が高いので、補助額を増やしてもらえば助かる」とのことであ

る。地元農家のたちは、イノシシ捕獲箱わなの許可を受けて、今年は9月・10月の2ヶ月間設置していましたが、「イノシシの被害は5月から始まる苗の植付けから、収穫時期の11月初旬まで被害が出るので、箱わな設置

許可を柔軟にしてほしい」との要望が出されました。

イノシシは行動範囲が広く、本田技研工場の南東側の畠まで被害が出ていることには驚かされました。

有害鳥獣駆除を調査 9/24 経済建設常任委員会

イノシシ捕獲許可期間を増やしてほしい

した。

有害鳥獣駆除とは？

イノシシやカラスなどによる農作物の被害を防止したり、軽減させるために、禁猟期間でも有害鳥獣駆除の許可制度があります。

鳥獣保護及び狩猟に関する法律に基づき、許可権限者の県知事が市町村長に権限を委任している。駆除や捕獲に関しては、猟銃の免許所持や、わなの設置許可など厳しく制限されている。